



大阪大学歯学会
The Osaka University Dental Society

NEWSLETTER



The Osaka University Dental Society

June, 2022 | No.26

令和3年度 大阪大学歯学部弓倉学術賞・弓倉奨励賞

大阪大学歯学部弓倉学術賞、弓倉奨励賞は、歯科医学領域において優れた業績を挙げた本学歯学研究科・歯学部附属病院の教員に対して、大阪大学弓倉奨学会から授与される賞です。

大阪大学歯学会では、これらを受賞された方に例会での講演を依頼するとともに、大阪大学歯学雑誌への総説論文の執筆をお願いしています。令和3年度の弓倉学術賞は、宇佐美悠先生（口腔病理学教室）と佐々木淳一先生（歯科理工学教室）、弓倉奨励賞は、前川博治先生（歯科麻酔学教室）と八田昂大先生（歯科補綴学第二教室）に授与されました。



左から佐々木先生、今里会長、宇佐美先生

顎口腔因病態制御学講座(口腔病理学教室) 宇佐美 悠

研究論文名: Possible contribution of Wnt-responsive chondroprogenitors to the postnatal murine growth plate. J Bone Miner Res 34(5), 964-974, 2019.

この度は、大阪大学弓倉学術賞という大変栄誉ある賞を賜り、光栄に存じます。賞の審査・運営に関わっておられる先生方に深く御礼申し上げます。本研究は、遺伝子改変マウスを用いて細胞系譜解析法を行うことで、「成長軟骨を形成・維持する軟骨前駆細胞の一群を同定した」という内容です。これまで、ヒトのがん組織を研究対象としていた私にとって、初めての研究材料と手法で行なった研究で、米国ペンシルバニア州フィラデルフィア小児病院でPIをされていたMotomi Enomoto-Iwamoto先生の丁寧な指導と口腔病理学教室豊澤教授、教室員の皆様のおかげでまどめることができました。今回の受賞を励みとして、今後も楽しんで研究に取り組んで参りたいと思います。

高次脳口腔機能学講座(歯科麻酔学教室) 前川 博治

研究論文名: Dopaminergic modulation of orofacial mechanical hypersensitivity induced by infraorbital nerve injury. Int J Mol Sci 21(6), 1945, 2020.

この度は、栄誉ある弓倉奨励賞を受賞することができ、大変光栄であるとともに、一層研究に精励する所存です。

神経障害性疼痛の治療に使用される既存の薬剤では、効果が不十分な場合が少なくありません。そのため、作用機序の異なる薬剤が新たな治療薬として期待されています。今回、我々は、疼痛抑制に関与するドーパミン神経に着目し、ドーパミンD2受容体作動薬が、神経障害性疼痛を緩和することを示唆する研究結果を得ました。

最後に、ご指導下さいました丹羽教授をはじめ、歯科麻酔学教室の皆様にお礼申し上げます。

顎口腔機能再建学講座(歯科理工学教室) 佐々木 淳一

研究論文名: VE-cadherin and anastomosis of blood vessels formed by dental stem cells. J Dent Res 94(4), 437-445, 2020.

この度、研究論文「VE-Cadherin and Anastomosis of Blood Vessels Formed by Dental Stem Cells」に対し、第24回大阪大学歯学部弓倉学術賞を賜りましたことを大変光栄に存じます。受賞の対象となった研究論文は、JSPS海外特別研究員として、University of MichiganのJacques E. Nör教授のラボで実施した、血管内皮細胞に分化した歯髄幹細胞が血管として機能するメカニズムの一端を解明する内容でした。今後は、歯髄幹細胞の分化能を活用した再生医療技術の開発を行いたいと考えております。

本研究を遂行するにあたって多大なるご支援をいただきました、今里聡教授とNörラボのメンバーに厚く御礼申し上げます。

顎口腔機能再建学講座(歯科補綴学第二教室) 八田 昂大

研究論文名: Will implants with a fixed dental prosthesis in the molar region enhance the longevity of teeth adjacent to distal free-end edentulous spaces? Clin Oral Implants Res 32(2), 242-248, 2021.

この度は、令和3年度弓倉奨励賞を賜り、大変光栄に思いますとともに歯学会関係者に感謝申し上げます。本論文において、傾向スコア分析により歯の状態による影響を考慮した上でも、臼歯部遊離端欠損のインプラントは、欠損に隣接する歯の喪失低下に影響することが示唆されました。これは、臼歯部へのインプラント埋入は、さらなる欠損拡大を防ぐ有効な方法である可能性を示しています。

本研究の遂行に関して、ご指導ならびにご助言をいただきました池邊一典教授、ならびにご協力いただきました教室員の皆様に厚く御礼申し上げます。

2022年6月30日発行
編集・発行 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-8
大阪大学大学院歯学研究科・歯学部 ニュースレターWG(加藤、池邊、波多、高橋、佐々木、藤原、鋸屋)
総務課庶務係: TEL 06-6879-2831 HPアドレス: https://www.dent.osaka-u.ac.jp
大阪大学歯学会
事務局: TEL 06-6875-8300(内線2044) HPアドレス: https://ouds.dent.osaka-u.ac.jp
開室時間: 火・木(9:00~16:00)

大阪大学大学院歯学研究科・歯学部
ニュースレターNo.5

大阪大学歯学会ニュースレターNo.26



大阪大学大学院歯学研究科・歯学部
Osaka University Graduate School of Dentistry/School of Dentistry

NEWSLETTER



初代歯学部長
司倉繁栄先生の
レリーフ
(歯学部玄関前)

No.5
June, 2022

大阪大学歯学部創立70周年記念国際シンポジウム及び記念式典

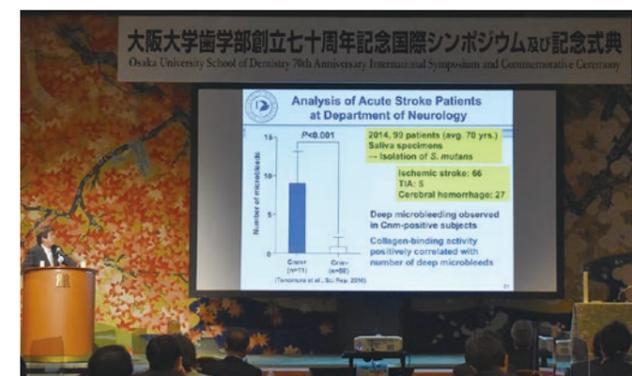
歯学部創立70周年記念国際シンポジウム及び記念式典が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年より延期して今年の5月28日(土)に、リーガロイヤルホテルにて開催されました。

国際シンポジウムでは、「Landmark for Next-generation Dental BioScience」をテーマとして、午後1時から「山楽の間」で、仲野教授の司会により三部に分けて行われました。今里研究科長のopening remarksにより始まり、第一部では、世界の名門校であるミシガン大学、ニューカッスル大学、チュラロンコン大学、国立台湾大学、国立ソウル大学の歯学部長からお祝いメッセージを頂くとともに、元留学生からも心温まるメッセージを頂きました。第二部では、座長の川端教授の進行により仲野教授と西村教授の講演が行われ、第三部では、座長の山城教授の進行により今里教授、天野教授、村上教授の講演が行われて、テーマに相応しく基礎科学から臨床歯科医学にわたる次世代の先端生命歯科医学について、大阪大学大学院歯学研究科のプレゼンスを世界に示すことが出来ました。その様子のライブ配信では海外の多数のアカデミアにも視聴頂くことができました。

記念式典は、午後5時から同会場で西村教授の司会のもとに執り行われました。冒頭に歯学部創立から今日までの70年の歴史を振り返る記念ビデオが上映され、今里研究科長の式辞により式典が始まりました。文部科学省高等教育局 伊藤医学教育課長、大阪府歯科医師会 深田会長、吹田市歯科医師会 三木会長、(株)ジーシー 熊谷常務取締役、(株)モリタ 石中専務取締役、大阪大学 作田(守)名誉教授、大阪大学歯学部同窓会 谷口会長、大阪大学の代表として、西尾総長、金田理事・副学長、田中理事・副学長をお招きし、多くの同窓会会員に出席頂き、厳かな雰囲気の中で式典が進められました。ご来賓からご祝辞を頂戴して、最後に我々の大先輩の立山先生(歯学部 昭和32年卒)が作詞された「大阪大学学生歌」を大阪大学男声合唱団の皆様にご歌って頂いて、林病院長の閉会の挨拶により式典を終了しました。

1951年に国立総合大学最初の歯学部として創設され、2021年に創立70周年を迎えた歯学部は、ヒトで言えば70歳の古稀にあたります。古稀は、盛唐期の詩人杜甫の漢詩の一節「人生七十古来稀」に由来するそうで、当時は古来稀であった70歳の長寿を祝う節目の年です。この古来稀という意味で、本学歯学部が創立から70年間の古来稀なる躍進を祝う節目として古稀を迎えられたことは感慨深く、これを機に、我々一同、決意を新たにして未来に向けてチャレンジしていく所存です。

(口腔病理学教室 豊澤 悟)



文部科学省医学教育課長 伊藤様からの祝辞(左)、大阪大学 西尾総長のご挨拶(中央)、国際シンポジウム(壇上: 仲野教授)(右上)、記念式典の様子(壇上: 大阪大学男声合唱団)(右下)

改修お披露目会

改修工事完了とお披露目会の開催

令和4年3月31日をもって、2年間にわたる歯学部・研究科棟の改修工事が完了しました。今回の改修は、建物構造体を維持して、基本インフラや床・壁・天井の整備をする既存建物改修でしたが、同時に、教育・研究における機能強化も図りました。その結果、講義・実習室のIT化など、最先端の歯学教育を実践できる環境や、幅広い研究活動を支援できる環境を整備することができました。この新しい環境で、構成員一同、心機一転して研究・教育・臨床に励む所存です。また、この改修工事は国からの予算に加え、同窓生の先生方や各企業の皆様から大変温かいご支援により実現することができました。このご支援への謝意を示すべ



今里研究科長のご挨拶(大講義室にて)

く、歯学部玄関ホールに寄付者銘板を新たに設置しました。さて、令和4年5月29日(日)には、改修工事ならびに歯学部の環境整備や学部学生への奨学金制度にご支援くださった方々をお迎えして、改修工事お披露目会を開催いたしました。お披露目会では、式典(写真左)の後に、参加者の皆様には、新しくなった歯学部棟と病院施設の一部を見学していただきました。特に、機能を一新してデジタル化した組織・病理学実習室では、タブレットをつかって組織標本を観察する作業を体験していただき、顕微鏡を使っていた時代からの変化を体感していただきました(写真右)。

(口腔生理学教室 加藤隆史)



組織・病理学実習室の見学の様子

国際活動

今里 聡教授が IADR 副会長に就任、2024年より会長に！

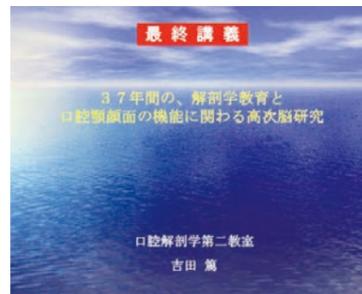
今里 聡教授(歯科理工学教室)が昨年12月に IADR (International Association for Dental Research: 国際歯科研究学会)の副会長に選出され、本年6月に就任しました。IADRは、1920年に設立された国際的・学際的な歯学系学会で、55の国や地域が部会としてその傘下であり、歯科領域では世界的に最高峰と言える学会です。2024年には日本人として4人目となる会長に就任することが決定しており、世界の歯学研究をさらなる高みへと導くリーダーシップに期待が寄せられています。



最終講義

口腔解剖学第二教室 吉田 篤教授の最終講義

長きにわたり本学口腔解剖学第二教室の教授を務められた吉田 篤先生が、この度ご定年をお迎えになるにあたり、令和4年3月25日に最終講義「37年間の、解剖学教育と口腔顎顔面の機能に関わる高次脳研究」が開催されました。コロナ禍対策といたしましてオンライン配信(ライブ配信とオンデマンド配信)という形式となりましたが、吉田先生が心血を注いでこられた口腔顎顔面領域の神経機構研究と解剖学教育について、370名を超える多くの方々にご聴講いただきました。(口腔解剖学第二教室 古田貴寛)



社会学共創

クラウドファンディングプロジェクト『視覚障がいのある方に「触ってわかる」歯の模型で「健口」を！』

■ 歯学部で作った8倍大の歯模型で社会貢献

視覚障がいのある人の歯科治療の時に、十分な情報を正確かつ短時間で提供することは困難でした。そのため障害者歯科治療部、歯科技工士学校とイノベティブ・デンティストリー推進センターでは、7年前から「触ってわかる」歯模型の開発を続けてきました。利用者調査と改良を重ね、2017年にはグッドデザイン賞を受賞したことから、量産を試みようとしたのですが、費用面で事業化が叶いませんでした。そこでクラウドファンディングで資金を得て、視覚特別支援学校や歯科大学附属病院など全国120ヶ所に歯模型を届ける、社会貢献プロジェクトを立ち上げました。

■ 支援が1,000万円を超え、全国に模型を配布予定

昨年、大阪大学×READYFORのプロジェクトに採択さ

れ、11月8日から12月24日にクラウドファンディングを実施しました。その結果、356名の方から総額10,105,000円のご寄付をいただき、プロジェクトの達成に必要な資金が集まりました。本年3月から模型の製作を始め、今秋にはできあがった模型を発送し、学校での歯磨き指導や、診療の説明に使っていただくとともに、歯学部内でも貸し出し用模型を保管する予定です。

(障害者歯科治療部 村上旬平)



産学連携

世界初、阪大発の歯周組織再生剤「リグロス®」誕生

歯周病治療の基本は、歯周病の原因であるデンタルプラークを除去することです。そうすることで、歯周組織の炎症は無くなり、歯周病の進行を食い止めることができます。しかしながら、そのような原因除去療法のみでは、失われた歯周組織を取り戻すことはできません。一方、歯周組織欠損部周囲の歯槽骨や歯根膜には、「歯周組織の幹細胞」が存在していることが明らかとなっています。そこで、その幹細胞を至適に活性化すべく、我々の研究室では強力な血管新生作用と間葉系細胞の増殖誘導能を有する塩基性線維芽細胞増殖因子(FGF-2)の作用に着目し、新規歯周組織再生療法の開発に、産学連携で取り組んできました。10年以上におよぶ非臨床研究に引き続き、2001年より臨床試験(治験)が実施され、その結果として、0.3% FGF-2

製剤(リグロス®)が世界初の歯周組織再生剤として薬価収載され、歯周組織再生療法における新たな標準治療が誕生しました。

リグロスは、中等度の歯周組織欠損を対象として開発された再生誘導医薬品ですが、骨補填剤との併用やインプラント治療への応用等、多様な症例に適応拡大できるよう、今後も地道な研究を産学連携で継続してまいります。

(口腔治療学教室 村上伸也)



歯周組織再生剤「リグロス®」歯科用液キット

就任のご挨拶

口腔解剖学第一教室に大庭 伸介教授が就任！

この度、2022年5月1日付で口腔解剖学第一教室を担当させていただくことになりました大庭伸介と申します。2001年に東北大学歯学部を卒業後、東京大学、ハーバード大学、長崎大学において、骨格系の生物学・発生学の研究を行ってまいりました。骨格系の発生と維持における遺伝子制御ネットワーク(=骨や軟骨の設計図)を明らかにし、骨格系の変性や欠損の治療につながる基礎的知見を集

積したいと考えております。また、学部・大学院教育を通じて次世代の歯科医学・生命科学を担うT型・H型人材の育成にも尽力する所存です。どうぞよろしくお願いたします。

(口腔解剖学第一教室 大庭伸介)

